

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 三木町の山大寺池から神山地区を歩く

講師 千葉 幸伸
(高松市歴史民俗協会会長)

平成27年6月28日(日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

一 山大寺池

昭和六〇年（一九八五）一月から平成三年（一九九一）一月にかけて、池の一部埋め立てと改修が行われ、堤長三六〇メートル、堤高一・一メートル、満水面積一・八ヘクタール、貯水量三五万四千立方メートル、かんがい面積一〇二ヘクタールとなった。三木町有数の大きな溜池である山大寺池は新川の支流鍛冶川をせきとめてできた溜池であるが、以前は、現在の山大寺（寺院）の南に広がる出水地区の低湿地に出水池という小さな池があったにすぎない。

寛永三年（一六二六）閏四月七日（今の暦でいうと六月中旬）頃、大風雨にみまわれ、洪水によって出水池ほか多くの池や川の堤防が切れたため、地元民は修復を願い出た。明けて寛永四年一月、奉行の一人である西嶋八兵衛が三木郡上高岡村へ来、嶽山東麗の地形を詳しく検分した結果、出水池を捨て、新たに大池を作ることになったのが、山大寺池の築造であり、工事は翌寛永五年に完成した。

西嶋八兵衛は名を之友、ゆきとも通称を八兵衛といい、遠江国浜松（静岡県）に生まれ、治水土木に通じ、十七歳で伊勢国（三重県）津藩主藤堂高虎に仕えた。

寛永二年より讃岐へ派遣され、以後農村の復興に取り組み、讃岐各地に溜池を築きながら、寛永一六年まで讃岐に滞在した。



【図1】寛永10（1633）讃岐国絵図に描かれた山大寺池

寛永一〇年に生駒藩から金毘羅（現・金刀比羅宮）へ奉納された讃岐国絵図には山大寺池ほかの大池が誇張されて描かれている。溜池築造の事績を神に報告する、あるいは誇る意味が込められたものと考えられる。【図1参照】

山大寺池の築造により、上高岡・下高岡・氷上・井戸の各地域が潤うことになったが、山大寺池は土砂が貯まりやすかったのと、かんがい面積が広過ぎたため

普段から水量が足りないので、日照りともなれば水げんかは避けられなかった。昭和一四年の干ばつ以来、嶽山の頂上には竜神が祭られており、頂上で火をたく雨乞いが幾度となく行われた。現在では香川用水の水を動力で揚げることができるようになり、水の悩みは解決した。



県営山大寺池改修工事記念碑

築造後三六〇年近くたった山大寺池は、老朽化のため昭和六〇年度から平成二年にかけて全面改修された。その機会に作られたのが、三木町総合運動公園である。四季折々に美しい姿を見せてくれる山大寺池は昭和四十三年、新さぬき百景の一つに指定された。

二 太古の森と浮き橋

平成四年度にふるさと創生事業の一環として建設された施設が太古の森である。山大寺池東部に突き出た半島部の約三・八ヘクタールに、町の記念

樹であるメタセコイアを二七〇〇本植樹し、生きた化石植物の群落を出現させた。太古の森は、みどりの丘、展望の丘、記念の丘、太古の広場とそれらを結

ぶ散策コースからなり、自然とのふれあいの中で、悠久の時の流れに思いをはせ、四季折々の散策、森林浴などが楽しめる森となっている。

平成五年五月一二日に、太古の森落成式が、故三木茂博士夫人をはじめ多くの関係者が参加して、盛大に行われた。また同年一二月には、恐竜テイラノサウルス、トリケラトプスの遊具などが設置され、子どもたちの新しい遊び場となっている。



太古の森

総合運動公園と太古の森を結ぶ連絡橋として、山大寺池には浮き橋「水上アベニュー」が整備された。幅は一・五メートル、長さ七二メートルで、中央部には水上でも休憩できるよう四カ所の「出島」があり人気のスポットとなっている。この浮き橋は財団法人日本宝くじ協会から贈呈されたもので、七〇個のフロートの上に鉄骨製の橋を載せ、通路部分は板張りとなっている。平成五年五月二七日に完成式典が行われた。

三 鎌倉芳太郎碑

平成二二年、山大寺池北側に、三木町名誉町民である鎌倉芳太郎の顕彰碑が建立された。鎌倉芳太郎は明治三十一年（一八九八）一〇月一九日香川県三木郡氷上村（現在の三木町氷上長生）に生まれた。7歳のときに母を亡くし、父が事業に失敗したため、白山高等女学校で裁縫の教師をしていた伯母に預けられた。その後、香川県師範学校を卒業、東京美術学校・図画師範科へ進学し、卒業後の大正一〇年（一九二一）沖縄県女子師範学校、県立第一高等女学校に赴任した。



山大寺池北側にある鎌倉芳太郎顕彰碑

美術教師として働いている間、まばゆいばかりの沖繩の風物にすっかり心を奪われた芳太郎は、ひまを見つけては、首里王宮や遺跡を見てまわり、歴史と芸術に興味を覚えて、写真撮影や文献調査を基本とした琉球芸術の研究を始めた。この時の資料が『鎌倉ノート』の始まりとなる。

大正一二年、教師として沖繩で二年間過ごし、東京に帰った芳太郎は、東京帝国大学の伊東忠太教授いとうちゅうたと出会うと教授からその資料を絶賛され、師事することになった。翌年の三月、首里城正殿の取り壊しを知った芳太郎は、すぐに伊東教授に相談。内務省を通じて、史跡名勝記念物として保存されることで、工事を中止させることになり、このことで「沖繩の恩人」と呼ばれている。足かけ七年をかけて調査した『鎌倉ノート』は、全部で八十一冊、千枚以上の写

真資料とともに沖縄研究の第一級の資料であることから、後に国の重要文化財に「琉球芸術調査写真」として指定された。

四十六歳のとき、第二次世界大戦中の東京大空襲で、中野に住んでいた芳太郎の家もこの戦災から逃れることはできなかった。家も研究用の本も、全て火事により無くしたが、唯一残ったのが、東京美術学校文庫に保管されていた、琉球芸術研究を記した沖縄のノートと紅型の型紙であった。運命を感じた芳太郎は紅型一本で立ち上がることを決意して、琉球紅型の復元に取り組み、六十歳で、第五回日本伝統工芸展に入選、一流の作家として技術を完成させた。そしてついに七十四歳の秋、日本工芸総裁賞Ⅱ最高賞を受賞。翌年七十五歳で、重要無形文化財保持者Ⅱ人間国宝に指定された。

若き日の琉球文化の研究が紅型の作家となる道を選ばせ、琉球紅型の復興に役立った鎌倉芳太郎を称え、昭和五八年八月三日、八十四歳で死去した翌年の昭和五九年、三木町の名誉町民として顕彰された。

四 山大寺

山大寺は天台宗。木造聖観音立像を本尊とし、大字上高岡に位置する。

由来は、前住職平井哲山が、旧山大寺の再建を發願し、自ら約五か年間托鉢行脚の修行により浄財をつのり、また地元有志および地方信徒の助力により昭和三十一年一二月本堂が完成した。

現在は本堂を中心に薩摩堂を配置し、薩摩堂内には丈余の厄除不動明王が安置され、その背後には四〇〇体を超す千体不動尊と称する奉納仏がある。境内には、西国三十三か所の観音像や地藏尊等の石仏が立ち並んでいる。



山大寺

五 三木茂資料館

三木茂は明治三四年（一九〇一）香川県木田郡奥鹿村（現在の三木町鹿庭）の新川と葛野川が合流する角地にある農家に生まれた。茂の少年時代は、



三木茂資料館（生家跡）

ひとつのことに集中するくせがあり、学校から帰るといつも裏の小川で魚をとって遊んでいた。茂の少年時代は、あまり他の子どもたちからは相手にされないような子であった。大正四年（一九一五）十四歳の時、木田農林学校に入学。植物の採集と観察に関心をもち、三年間で周辺の植物を調べつくしてしまい、植物担当の松原安三先生から「わからん植物があったら三木君に聞きなさい。」と言われるまでになった。

大好きな学問をやめることができないと感じた茂は反対していた父を説得し、盛岡高等農林学校へと進学を許された。十七歳で盛岡へ出るまで過ごした鹿庭の生家跡は、資料館となって偉大な足跡を後世へ伝えている。

・三木茂の功績

昭和六年（一九三一）の秋、三木茂は宇治近くの黄檗山おうばくさんの裏山で、青色粘土の中からブナの葉や、ヒシ、ハスなどの植物の圧縮化石を発見した。茂はそれらを植物遺体しよくぶつたいと名付け、日本中を駆け巡りながら年中研究に没頭した。そして昭和一四年、ついに和歌山と岐阜の粘土層から見つけた球果と小枝からセコイアと異なる新種を発見。昭和一六年、四十歳となった茂は、発見した新種をメタセコイアと名付けて学会誌「植物学輯法」にてメタセコイア属の設立を発表した。

日本が連合軍に無条件降伏したのち、ボルネオ島南部の低湿地を調査中だった茂は捕虜となり収容所に一年間入れられたが、帰国後、大阪市立大学理学部教授となる。

一方、敗戦の年、昭和二〇年中国の湖北省の奥地でメタセコイアが神木として生き残っていたのが見つかり、一躍、茂の研究論文は化石が生きていたことで立証され、発見者「ミキ」の名は国際的に認められることとなった。

その貢献が認められ昭和二六年、五十歳で、朝日文化賞・京都文化院賞を受賞した。その後も多くの植物遺体（化石）を集めて調べ続けた彼の研究は、植物学だけでなく古生物学や地質学にまで幅広く貢献している。

・ 生きた化石 メタセコイア

メタセコイアとは和名アケボノスギと言
い、昭和一四年（一九三九）関西地方の第三
紀層で、常緑種のセコイアに似た落葉種の植
物遺体として発見された。発見者の三木茂博
士により、「のちの、変わった」という意味
の「メタ」をセコイアにつけて、「メタセコ
イア」と名付けられた。当時は植物遺体Ⅱ化
石として発見されたため、絶滅した種と考え
られていたが、昭和二〇年、中国四川省（現・

湖北省）の奥地でメタセコイアの原木が発見され、現存することが確認された
ことから「生きた化石」と呼ばれる。

湖北省で発見されたメタセコイアの原木から採取した種を、アメリカの権威
者メリル博士が発芽させ、チェイニー博士から日本の天皇にメタセコイアの苗
木第一号が献上された。



スギ科メタセコイア属

その後、保存会ができ、全国各地で増殖され、成長し続けている。

六 旧神山村役場

明治二三年（一八九〇）に奥山村と鹿庭村かにわが合併して奥鹿村おくしかむらとなった時、役場は新川沿いの細い旧街道（現在地の東方に当たる）西手にあつた。その後、森の平井又三郎宅、そして上連じょうれんの平井尚三宅、同鎌倉清三郎宅、同三木芳次（三木茂博士の父）宅等を次々に役場として借用していたが、昭和二年（一九二七）四月に現在地（鹿庭上連）に新築移転した。敷地は藤沢克太郎が寄付し、工事は下高岡村白山の桑井九一が請け負い、経費は当時の金額で一万数千円であつた。

七 神山寺

神山寺は真言宗大覚寺派、木造弘法大師坐像を本尊とし、大字鹿庭に位置する。由来は、寺伝によると、「今より百五、六十年前武蔵国の了円（俗名友右衛門）という者が、四国巡礼で本尊を背負つて当地に來たり、民家に宿泊したところ、翌朝になつてどうしたとか一歩も歩けなくなった。そこで里人と相

談して小庵をたてた」と伝えられる。なお本尊は左眼に少し傷があり、目の悪い人が信仰すると治るといふ。

もと六軒島の大師庵とよばれていたが、戦後の寺号公称で神山寺と改称した。相殿に金毘羅宮があり、社前には自然石でつくられた大きな石灯籠がある。裏面に「文政五年（一八二二）壬午十月鹿庭村惣氏子」とある。現在の堂は昭和二四年総代鎌倉政太郎・同清三郎らの奔走で竣工した。

【参考文献等】

- ・ 三木町史 (昭和六三年 三木町史編集委員会編集 三木町発行)
- ・ 三木町史 現代史編 (平成一六年 三木町史編集委員会編集 三木町発行)
- ・ 高松市史年表 (昭和三五年発行)
- ・ 香川県史第三卷通史編近世Ⅰ (平成元年発行)
- ・ 香川県農業水利慣行調査 (水ブニと地主水について) (昭和二四年香川県発行)
- ・ 香川県地名大辞典 (昭和六〇年 角川書店発行)
- ・ 香川県史第十卷資料編近世史料Ⅱ (昭和六二年)
- ・ 三木町出身の偉い人 鎌倉芳太郎 (平成二四年 三木町教育委員会発行)
- ・ 三木町出身の偉い人 三木茂 (平成二四年 三木町教育委員会発行)

6月28日（日）三木町からの復路（公共交通機関を御利用の場合）

◆ことடன்く長尾線上り>

（学園通り駅）		（瓦町駅）		（高松築港駅）
13：15	→	13：40	→	13：45 着
13：35	→	14：00	→	14：05 着



次回のふるさと探訪は・・・

テ ー マ 高松城外堀跡周辺を訪ねる（予定）

と き 平成27年9月27日（日）

9：30～12：00頃

※7・8月の探訪予定はありません。

集合場所 ことடன்高松築港駅

講 師 大嶋 和則さん（高松市文化財専門員）

☆広報「たかまつ」9月15日号に開催案内を掲載します
ので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、
文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）で
お知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

◆ことடன்電車	（瓦町）	（片原町）	（高松築港）
〈長尾線上り〉	9：19 →	9：21 →	9：24 着
〈琴平線下り〉	9：23 →	9：25 →	9：28 着

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一直線で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。